

令和7年度 学校評価報告書 1 (計画段階 ・ **実施段階**)

学校名		福岡市立博多工業高等学校	学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価 (総合)			
学校長	ふりがな	ふくおか てつろう	【教育方針】 校訓「質実剛健」の精神を継承し、全教職員の参画と実践を通して生徒に自信と気づきを与え、自らの手で未来を切り拓ける工業高校生徒の育成を目指す。		【教育目標】 (1) 「安全第一」を最重要視し、工業教育で育つ「ものづくりの心」の上に専門的知識や確かな技術を習得させ、工業発展や産業社会に寄与・貢献できる有為な生徒を育成する。 (2) 人権教育を推進し、個人の価値や尊厳を大切にして、互いの人格を尊重する意識・意欲・態度を養い、実践行動ができる生徒を育成する。 (3) 礼儀や秩序、規律を重んじ、勉学や部活動に動しむ学校文化を創造し、誇りや自信を持った生徒を育成する。 (4) 進路実現 (進路保障) をメインテーマとし、ものづくり・資格取得・部活動を活性化することで、生徒を磨く。		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 合い言葉 : 「未来を支える工業高校として尖る」 </div>		学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	福岡 哲朗							B	B
校長本校在任年数		3年								
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	よしづみ まさたか								
	氏名	吉積 正孝								

昨年度の成果と課題
 ◎成果:①生徒が安全第一を意識した学校生活を送れている。 ②資格取得者が増え、ジュニアマイスター認定者が増加した。 ③進学・就職共に生徒の希望進路を達成できた。 ④支援が必要な生徒に対し、きめ細かな対応ができています。
 ◎課題:①学校改革に向けて、全職員の共通理解と意識の統一 ②SNSトラブル未然防止に向けた指導 ③早期離職の防止 ④総合型選抜に向けた進学指導 ⑤校外の人権研修への参加者の増加 ⑥働き方改革に向けた対応

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的な方策					
教育課程・学習指導	可能性及び能力を最大限に伸ばさせる授業への取組み	個に応じた指導の充実を図る。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学科特色を生かしながら生徒の学ぶ意欲を引き出し、授業満足度を高める授業実践や授業改善に全教科・全教職員で更なる取り組みを推進してください。 教育課程については個に応じた授業の取組みに共感を覚えます。生徒一人ひとりの立ち位置を明確にできなかったのではないかと思う。 学習指導はアクティブラーニングにより先生からの指導のみではなく、生徒同士で課題に向き合い、考え、話し、調べ発表することは、社会で必要不可欠なことなので、在学中に良い経験ができたのではないかと思います。 年2回の学習アンケートは生徒の望む授業のヒントとして効果的だと思います。 「教育課程」「学習指導」「生徒指導」の評価項目は、生徒一人ひとりが豊かな人生を送ってもらうために社会人としての重要な土台の部分となりますので引き続き学校全体での取組みをよろしくお願い致します。 	授業改善については、常に研究を続けていくことが必要。ICTの活用や授業形態の工夫など教員の研修の場で共有しながら取り組んでいきたい。
	授業規律の向上	教室環境の整備および整理・整頓を徹底する。 時間を意識し、自律的な学習を進めることができるよう意識付けを行う。	B				
生徒指導	規範意識の向上	規定・規約・心得を見直し、時代に合ったものに確立する。 様々な場面で挨拶・身だしなみ・自転車マナー(ヘルメット着用)等の指導を積極的に行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科活動やHR活動、学校行事などのさまざまな教育活動を通して有効な生徒指導が行われていると思います。 生徒から色々な意見・要望を発言しやすい意見収集の方法を模索してほしいと思います。 ヘルメット着用やマナーについては指導により一定の改善が見られたものの、自発的かつ継続的な実践には至っておらず、今後は生徒の主体性を高める取組が課題である。 	規定規約の改正については生徒の意見を取り入れながら時代に合ったものへと改善を続けている。ヘルメットや交通マナーに関しては、生徒の安全を守るという観点からも指導を工夫しながら継続して取り組んでいく。
	確かな進路実現 (就職指導)	企業選択の幅を広げるため、求人事業所への積極的な訪問活動を行う。 生徒が主体的に進路を選択できるよう、キャリア教育を体系的に実施することで、職業観や勤労観を育む。	C	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 工業高校として好調な求人実績、就職希望者合格内定実績を高く評価いたします。進学希望者の各校種への進路実現も果たしており、専門高校としての進路実績を高く評価いたします。生徒の多様な進路希望に応えるべく、新規の求人票開拓にも力を注いでください。 教職員の皆様の県内外企業への訪問及び情報収集をご尽力していただいたことで、今年も高い就職率をキープすることができましたのではないかと思います。進学は大学・専門などのバリエーションが充実していると実感しています。国立大学進学をぜひ実現してほしいと思います。 就職内定率から、生徒の指導の成果だと思います。多岐にわたった企業への就職もすこいと思います。 	就職については、求人倍率が高い水準を保っている。求人数も来校社数も増えており、来校受付システムの構築など学校の対応力を上げていく必要がある。
進路指導	確かな進路実現 (進学指導)	各学年の発達段階に応じた進学ガイダンスの実施と外部機関と連携することで、進学意識・目的を明確に持たせる。 国公立大学の学校推薦型選抜 (工業系) や総合型選抜に対応できるよう、情報収集を行い、指導体制の構築を推進する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導担当教員による進学ガイダンスに加え、専門学校職員やキャリア支援員と連携し、講演会や面接指導を実施することで、進学指導の充実を図った。また、国公立大学の進学実績を有する学校を訪問し情報収集を行い、校内研修において職員へ発信・共有した。国公立大学進学を見据えた早期かつ継続的な支援体制づくりが課題である。 	進学を希望する生徒が増加しており、進学指導により力を入れる必要がある。国立大学を含めた、工業系大学への進学・合格率を上げていく必要がある。
	特別活動	生徒会専門委員会が中心となり、生徒一人一人の声を積極的に反映させ主体性を持って学校行事等に取り組む活性化を図る。 各部活動生が目標を明確にし、主体的に楽しみながら取組みができるような環境や場面を設定し、部活動の活性化を図る。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員の働き方改革が進む中、部活動やものづくりコンテスト・競技会、資格取得等に放課後や休日に指導に当たられる先生方に感謝します。生徒の興味関心・能力の伸長を図るには先生方の熱意ある指導が必要ですよ。 油山際・体育祭・冬季競走など生徒会が中心となり工業高校らしいユニークなイベントを成功させたと思います。これからも思い出に残るイベントを盛り上げてほしいです。 	学校行事については、生徒会を中心に生徒が主体的に取り組む体制ができています。また冬季競走など一部行事の見直しも行っている。行事の精選と内容の充実を引き続き図っていく必要がある。
工業特色	「ものづくり」技能・技術の向上、工業各科の授業・実習内容の向上・見直し	各科の工業に関する専門性を向上させるため、外部との連携を積極的に図る。課題研究の充実のため学科横断的な取組みや外部との連携を推進する。知的財産教育に関して計画的な取組みを実施し、定着を図る。 ものづくり技術を向上させ、競技会などでの成果を高める。地域や中学校に対する広報活動を充実させ、本校の取組みを積極的にアピールする。	B	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 6学科それぞれ、学科特色を發揮した指導内容や指導手だてについて工夫努力し、斬新な指導実践を取り入れて工業高校の魅力のアピールしてください。 今年もものづくりコンテストでは好成績を残すことができましたし各競技大会に積極的に参加することで世間に工業高校の在り方を示すことができたと思います。いろいろなメディアで本校の活動を取り上げてくれたことをうれしく思います。資格は財産になりますので引き続き指導をお願いいたします。 担当教員からは辛口の成果となっていますが非常に努力されていると思います。時間外への問題は悩ましいところですが専門指導に對してできる限りのご指導を行っています。 公民館での作品展示会やものづくり教室では生徒さんたちをはじめ大変お世話になった。資格取得は生徒の武器になると思うので可能な限り取り組んで欲しい。 	福岡市動物園や、地域の公民館、地域保育園、老健施設など、地域との連携事業を多数実施できていることに感謝しつつ、地域等に情報を発信する良い機会と捉え、今後も連携を強化していきたい。
	資格取得・各種検定合格率の向上	資格取得プログラムを充実させ、専門性の高い資格や、難易度の高い資格習得を目指し、ジュニアマイスター顕彰の認定者の増加を図る。 資格取得指導を充実させるための、新たな指導体制の確立を図り、教員の資格指導に関する資質・専門性の向上を図る。	D	D	D	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得に対する意識の高揚、資格指導体制の見直し、資格指導時間の確保が働き方改革が進行していく中での、今後の課題である。 	資格取得について、課外の補習の縮小などでジュニアマイスター認定者数等が減少している。今後も補習の方法等、検討していく必要がある。
	進路保障における問題解決に努め、生徒一人一人の自己実現に対する支援を行う	生徒・保護者の要望を聞きつつ、支援が必要な生徒に対してきめ細やかな配慮を行う。 各種奨学金・給付金制度への相談体制を充実し、周知と理解を広げる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 早い段階から配慮が必要な生徒の進路指導に取り組むことにより、本人の希望に沿う支援が達成できたこと評価している。また、奨学金や給付金制度の相談も丁寧に行えた。引き続き配慮を要した生徒の卒業後の見守りを行っていききたい。 	奨学金等の募集案内等の支援や、中学校と連携した特別支援の取組みは組織的に進めている。公立の学校として引き続き注力していきたい。
学修支援	個人の価値や尊厳を大切にし、互いの人格を尊重する意識・意欲・態度を養い、実践行動ができる生徒を育成する。 屋形原特別支援学校との交流学習を実施する。	教職員の人権教育研修の充実をはかり、生徒の人権意識高揚に繋がる人権教育を推進する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権に関わる生徒による発言が増加傾向にあり、相応しい人権感覚が身につかない実態が伺えた。一方で、教職員の人権に関する意識の高まりが、生徒の間違った表現を見逃さず、正していく学校風土を醸成している。人権教育研修の成果が着実に表れていると感じる。 	人権に関する教員研修を継続して行いつつ、さらに生徒の人権意識を高める特設授業の内容を充実させていきたい。

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度,B…目標を上回る達成度,C…目標どおりの達成度,D…目標を下回る達成度,E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取組み状況等について記入すること。
 ※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。